時事新報の編輯に關する書信にして往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在れ事ありて折角の報道も其用を爲さゝると奪からざれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行廿四字詰	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至卅行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

土地の說

ドクトル、セメンズ原文反譯

經濟の上に現はるゝ土地の價は何國の人民にも最も大切なる事柄にして概して云へば人口の多きを加ふるに隨ひ上進する筈なれども此價たる大に變化すべきものにして種々の原因事情に由り浮沈常ならず或は一時一部に限ることもある可し其邊は兎も角も土地を以て小にしては一箇一人の生活を助け大にしては全國全體の成立と支ふべき方便の具なりとするときは其價は何よりも大切にして百事其右に出づるものある可らず甲の法なり乙の法なり直接に間接に土地は有らゆる富の源にして直ちに土地を耕作するの外に貨殖の道なきには非ざれども畢竟土地と用ひざるはなし土地に生ずる物に就き其形と變へ其質を改め之を人間社會の爲めに利用して始めて富を作り財を貯ふ可きなり只手段の異なるのみ其源と蓋し土地に在りと云ふて可ならん左れば健康と眞の幸福との大部分は國の土地に由て生を營む職業として自から其地を耕作するもの丶手中に歸するが故に富國到るところ最も善良にして風俗厚き人民と云へば農民に外ならざるが如し

全世界中の國々にして英國を除くの外開墾事業の進步したる良き土地を有するものは必ず富裕第一の國あり英國の富は格別の事なれども其本と尋ぬれば是亦自國及び他の國々の土地に生じたる產物を以て交易し或は製造したるに過ぎず土地耕作以外の職業に由て得べき富財は概ね冒險にして常に甚だ不安心なるものなり例へば此國の業は十中九の失敗を招くものとすれば土地耕作の失敗は一にして止むが如し尤も土地より收入すべき利益は薄きに相違なしと雖ども成算の誤なきに至ては殆んど百發百中と云ふも可なり若し夫れ土地より出でたる產物にして十分其土地を耕へす人の入用を充たすに足らざることもあらんには何か其間に無理の存することは更に疑ある可らず蓋し其無理とは何ぞや土地に生ずる主要の產物にして非常法外に廉價なるか或は土地に課する租稅の甚だ重くして負擔に堪へざるか抑も亦この二者の合して一時に來るか百中の九十九までは必ず此外に出でざる可し今、日本にて米を作る農民を例に取り論ぜんが爲めに土地を買ふもの丶入費に多少を論ぜず之を耕し得れるは何の[illegible]世人の知る如く主要產物の價甚だ低廉なるを以て其收益の薄きもなるものと謂る可し之に反して稻を養ひ業と營する等の事業には曾て米農の受けたる如き困難なるは申そまでもなく却て繁昌の色を呈して當に租稅を拂ふの力あるのみならず猶は餘裕と以て他の土地を買ひ益々其富を殖やすの勢あるが如し米田ハ日本に於て最大部分を占め廣大なると遙かに桑園其他の土地に超出し古來日本の富源にして國用の供給は皆この源に仰ぎたる次第のものなれば米を作る農民の財政よして今日の如き有樣なるは人民の不幸のみか政府に取ても甚だ痛ましきことなりと云ふ可し

此時に於て稍尋常と思はれ難きものハ此の如き米農の困難が豐作年を連ねたる後に起るの一事なり之れに由て見れば農民ハ稼げば稼ぐほど愈々貧乏に赴くが如し甚だ怪む可しと雖ども此事を說明するに米の產出多きに過ぎたるハ猶は製造品の供給が其需用に超えたるものに異ならず市場に溢るゝ製產の品ハ勢必ず下落せざるを得ずと云へば年豐にして農家の苦むも亦當然の數あらんのみ抑も製造品の過多あるときには其不利益と爲るの機を見て此上の製造と廢むるを以て療治の常とするが故に或る經濟學者は農民に敎えて此救治法を用ひしめ米作と廢むる代りに養蠶の業を奬むるものあり忠告誠に善しと雖ども此を去て彼れに就くには大に日月を要して迚も農民目下の急に應ずるに能はざる可し

米を作る小農夫にして租稅を拂はんが爲めに收穫の米を賣るも猶ほ不足を告げて此上力の及ばざるときは自前差當りたる結果として次第に家產を傾け得る所のもの丶何たると問はずして土地を他人の手に渡すの外手段ある可らず徳川政府の法度に心得ある人ハ皆其當時に土地の賣却を禁制したることを知るなるべし此禁制法度の趣意は載せて地方諸穗集に在り今茲に之を揭出すること左の如え

第一　若し人民を許して自由に土地を賣らしむれば浪人商賈或ハ農夫の金を持つもの丶漸く兼并の道を得て次第に全村の主となり又進んで一郡と領するに至らん此の如くなるときは權力大に加はり遂には一揆騷動の中心を生ずる政府に取て甚だ恐るべき危險のものとなる可し

第二　小にして貧しき農民の一時去り難き理由に迫り其土地を失ふとれは是れより大地主の下に屈して奴隸の身に落ち慘然告ぐるなきもれとなる可し

（未完）

雜報

○大坂神戶出張員の更代　大坂なる時事新報社出張所よハ是迄本社編輯局員津田興二氏在勤して同地方の通信事務を擔任え居りしが今度本社に歸ることとなり其後任として本社編輯局員小林梅四郎氏が昨日東京と出發し路を東海道に取り赴任えたり又神戶の本社出張所にハ本社會計局員宮本作二郎氏が在勤して關西地方へ新報配達其他の事務を負擔しゐりしが同時に本社に歸ることとなり其代りとして本社會計局員高木喜之郎氏が此程發足赴任しされば事務引繼の上當時在勤の兩氏は近日歸京する筈なり

○醫術研究　京橋區水谷町の醫師加藤時次郎氏ハ醫術研究の爲め近日歐洲へ赴くよし

○ノーマン氏　過日の紙上にも記したる如く英國ペルメルガゼット新聞記者ノーマン氏は昨日は又警視廳其他一二の官衙を巡覽したるよし

○ウィルソン夫人　佛國に於て勳章賣却事件により罪を得たるウィルソン氏の夫人（前大統領グレヴィー氏の女）は何分にも巴里の人心ウィルソン氏を惡むこと甚だしく同府に住居し難きに付き近々外國に赴かんとする由なるが多分子供と引連れ米國ニウヨークへ赴むくならんと云ふ

○夏嶋笹山の砲臺　今度神奈川縣下三浦郡夏嶋及び笹山の兩處に砲臺を建築することとなり東京工兵第一方面より工事請負の者を募集する廣告文を昨日の官報に揭げたり該廣告によれば會社にても一個人にても日本國の民籍よあり工事に良好よ施行を得るに足るべき實驗あると要する等の定めありて來月九日を入札書持參の期限とせり

○巡査派出所の電線　此度府下の各巡查派出所へ架設せるといふ電線は普通電信電話線と違ひ一種の符號電信にて其符號は赤白二種に分ち赤と指す時は火事又白を指す時は强盜或は兇徒聚集等の非常報知を爲すものなりと

○西伯利鐵道線路　西伯利鐵道線路は既に測定の上圖面の調製を了りたり右線路は西端トムスクより太平海岸の浦鹽斯德に涉り其經過の箇所は左の如し（本月十二日香港デイリー、プレッス）

マリインスク　アチンスク　クラスノヤルスク
ニージニー、ウヂンスク　イルクツク　ポソリスコイ
ウエルフネ、ウヂンスク　チタ　ネルチンスク
ストレチエンスク　グラフスキー、ポルト　ニコリスコイ

○南勢鐵道會社　にては去る十七、十八の兩日大坂南區北濱二丁目なる創立事務所に於て發起人の總會を開き資本金額七十五萬圓に對する應募超過の分は夫々株主へ割戾し又創立費は愈々其筋の許可を得る迄ハ發起人に於て負擔し且つ四名の請願委員を撰擧する事等を議決し右委員には小林八郎兵衛、駿清右衛門、寺田將美、澤井友郎の四氏が當撰せしに就き不日三重縣に於て再び發起人の總集會を開き同縣廳の添書と乞ひ四名の請願委員中二名繰合せ上京出頭の都合なりといふ

○大分鐵道　豐後の大分より肥後の熊本に達する鐵道を敷設せんとは既に目論見あて熊本縣よりは其相談の爲めにとて有志者二名大分に赴きしが同意者多く依て去る十七日大分町に於て有志家の集會を催し種々協議をなしたりといふ

○武官任免　近衛步兵第三聯隊小隊長陸軍步兵中尉鷹司煕通氏は本職を免して更に嘉仁親王附を陸軍工兵第一方面工役長陸軍工兵大尉渡部當次氏は本職を免して工兵第四大隊長心得を命せられ又同工兵中尉山本誠喜氏ハ工兵第四大隊小隊長に同步兵中尉鈴木信氏は陸軍參謀本部出仕を免じて步兵第二十聯隊小隊長に同步兵大尉樽木政章氏は陸軍參謀本部出仕を免して步兵第二十三聯隊第二大隊中隊長に補せられ又同步兵第一聯隊附陸軍步兵小佐太田貞固、同步兵第三聯隊附陸軍步兵少佐飯森則正の二氏は陸軍一等軍吏山田有稱の被告事件に付き軍法會議判士と命せられたりと

○司令部駐劄地の工事　第一師團司令部にては過日來陸營經理部の軍吏を派遣し各大隊區司令部、監視官駐劄地等の新築又は修繕すべき場所を撿分中なりしが既に其撿分と終りたるを以て追々起工に着手するよし

○關西有志懇親會　藤田一郎氏の發起に係る同會は去る十七日より大坂中ノ嶋洗心館に於て開きたる由なるが當日の來會者は六十餘名にして席上藤田氏の演說あ

り尙ほ其翌十八
たるが右は豫て
よ就ての相談な

○地租輕減の建
郎氏外六十名は
書を元老院に差出
廳へ出頭して右

○第二地方部師範
豫算の儀に就き
福嶋縣に開設す
等なりといふ

○第三高等中學
る第三高等中學校
建方に着手せし
愈々出來の上は
れよりは內部の
平屋にて二百七十
餘煉瓦を積み上げ
都合にて職工は
內外の員數にて

○高等女學校の卒
橋外なる高等女學
唱歌、演說、會話、
を受けて會集し
官、辻文部次官
兄親族等總て五百
縫品、圖畫等を陳
よし

○兩學校の卒業試
ては來る九月十日
業すべきは普通科
又同區小川町の法
驗を執行し同十五

○農務局長の答案
左衛門氏の提出し
んとの建議に由
て去る五日を以て
宛て右建議書の
りや害の多少有無
たる書面に對し
の如くなりしと
に含める蛋白質、
に在るが故に砂の
は固より畜類の
量多ければ健康と
て患ふるほどには
纎維を含むものに
之を交へたる米糠
しと雖ども畜類飼
分にして大鋸屑粉
たる牛馬に適るは
は其効用や丶米糠
是亦有害と云ふ可
も亦窒素、燐酸及
は窒素に富めるが
種の要素なき砂を
なれども植物發生